

No.103

会 報

2003 (平成 15)年 6 月 15 日 Shizuoka Consulting Engineers Association 静岡県技術士協会
事務局 〒 416-0952 (株)建設コンサルタントセンター内 (TEL 0545-64-6665 FAX 0545-64-3690)

会 長：守屋 文二 専務理事：吉澤 淳
編集担当者：森 稔夫 山之上 誠 高尾和宏

振込口座：静岡銀行 清水中央支店 普通 0718595 静岡県技術士協会 会計 藤田協右 (0543-64-1148)

〔2003 年度・総会における会長挨拶〕



静岡県技術士協会 会長 守屋 文二

本日は総会にご参加いただき有難う御座いました。

ご来賓の方々には遠路誠に有難う御座います。
昨年度はCPDが制度化されました関係上、私共の行事もCPDを組み込んでやったわけです。

そのため従来の例会の参加者に比べ、増えて良かったと思っております。

また久し振りに、県の商工労働部より、認定企業の調査事業の委託を受けまして、これの調

査を50社ばかりやり、一部の会員の方にご苦労をおかけ致しました。

ということで当協会も県内での活躍の場が増えることを喜ばしく思っております。

今年度の審議を今から行って頂くわけですが、これからも皆様のお役に立つ活動を目指して、執行部一同頑張っていきますので、皆様の絶大なご支援とご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

2003 年度定時総会開催

日時：2003 年 4 月 18 日（金）14：30

於：クーポール会館 静岡市

司 会 専務理事 吉澤淳

開会挨拶 副会長 木村芳正

会長挨拶 会 長 守屋文二

来賓紹介

社団法人日本技術士会中部支部

愛知県技術士会代表幹事 柴田素伸様

社団法人日本技術士会中部支部

岐阜県技術士会代表幹事 渡邊好啓様

社団法人日本技術士会中部支部

三重県技術士会代表幹事代行 後藤睦男様

来賓祝辞 柴田素伸様

議事

第 1 号議案 2002 年度事業報告

第 2 号議案 2002 年度決算報告

第 3 号議案 名誉会員推戴の件

第 4 号議案 2003 年度事業計画

第 5 号議案 2003 年度収支予算

第 6 号議案 その他

審議の上原案の通り承認される。

詳細は議案書に記載

閉会の辞

副会長 神立 信

記念講演「二十一世紀は環境の世紀」

東海パルプ株式会社

取締役会長 原 健二様

懇親会

以 上

- 記念公演 -

21 世紀は環境の世紀

東海パルプ(株)取締役会長 原 健二

只今ご紹介にありました原で御座います。本論に入る前に申し述べたいことがございます。東海パルプは今年創立 96 年になります。戦前は大倉家の支配する会社でしたが、戦中戦後の初代荒井彦宗氏から本格的に会社としての経営にあたるようになり、私はそれから 5 人目の社長となります。

私は昭和 30 年入社以来 48 年間、丁度会社の過去半分に当たる期間を勤めたことになりま。守屋さんとは同期入社でずっと仲良く仕事

東海パルプ(株)取締役会長 原 健二様



をしてきました。今回本席のお話がありましたとき、専門の技術者の皆さんにお話をするような器ではないと申し上げましたところ、時々専門の話でなくあっちへ行ったり、こっちへいったりの話もありますからそれで良いですからということで引き受けました。

テーマが大変大きいのですが、私は政治家でも技術者でもないで、自分が半世紀勤めてきた東海パルプの経営を通して、21 世紀が環境の世紀ではなかろうかと自分でも実感しておりますので、環境と言う切り口から申し上げてご理解を賜りたいと思います。なお工場の専門については高久工場長、山の専門は東海フォレストの内海社長が控えておりますので宜しくお願います。

さて、徳川家康は、江戸に幕府を作りますとまもなく秀忠に將軍職を譲りまして、自分は駿府に隠居します。家康が死ぬまで恐れたのは山の向こうの武田の残党だと言います。これは三方ヶ原でこてんこてんにやられたことがあり、武田怖しがあつた、そこでずっとこの山 井川山林東海パルプ社有林 は幕府直轄の天領であつた。死ぬ間際家康は最も信頼していた家来の酒井（系図では雅楽頭が有名）にこれを与え、その代わり武田への備えをしっかりとやりなさいといった。山は酒井家の処領となり明治になった。大名は衰え、新興の財閥が興り、大倉もその中であつた。明治 28 年、酒井家からこの山を買ってくれと言われた大倉は現場も見ずにこの山を買つた。大倉は 12 年後島田に東海紙料という会社を作り、この会社にこの山を売つた、これで相当儲けた。これが大正 5 年だつた。明治 6 年日本に西洋式の紙の作り方が導入され、それまで和紙のみだつた紙に大量生産の洋紙が生産されるようになった。この頃渋沢栄一が東京王子に王子製紙をつくつた。今ここは紙の博

物館として残っておりますが、大量生産の紙が出回るようになった。これを大倉も知っており、井川の木材と、大井川の水を使って下流に製紙工場をつくろうと山を買った時点から考えていたらしい。その証に電気が必要だと考え、地名と笹間渡に水力発電所を構築しております。

このようにして井川山林は明治 28 年大倉さんのものとなり、東海パルプに売りつけられ、社有林として今にいたっている。

ところで日本の林業ですが、カナダあたりでは平地にたくさんの木が立っているし、10 年から 15 年で立派な木が出来る、全くカナダと日本では違う、戦後家を立てる材木は海外からドッと日本に入ってきたので、日本の林業は国際競争に負けます。井川の木材を売り食いしてきた東海もだんだん赤字となり、昭和 58 年井川の木を切るのを止めてしまった。余談ですが、江戸の大火事が、何回もあったその時有名な紀伊国屋文左衛門が活躍したが、紀州からも持ってきたが井川にも良い材木が出ると知っていたので此処からも江戸へ持って行って大儲けをした。どうして運んだか技術は無かったので、川狩りが有名です。木を切って大井川に落としこれを貯めて堰を作りこの土手を一気にくづすわけです。そうすると水に木が浮かんでいきますから大変な圧力で一気に下流まで流れていくわけです。駿河湾まで流れていくわけです。それを筏にくんで持っていったのではないかとすべて人力でやっていったと思います。

山は土壌の保全、水源涵養、二酸化炭素の吸着、といった自然の機能維持に、大変な縁の下の力持ちで役立ってきたと思います。当時はそれが当たり前ですから山があってそれが水にとって大切なんだ、二酸化炭素を吸着しそれが人間にとって大切なんだとは言わなかったんだと思いますが、井川山林の機能は高度なものがあったと思います。山はほって置けば荒れます。大変なことになりますので会社はその機能を保全するために大体毎年 1 億円近いお金を投入しますが、収益にはなりません。しかし山は、公共のお役に立っていることと 100 年近い昔から先祖からもらった経営資源ということですからこれをおかしくしてしまったら時の社長は面子が無く子孫に美林を残さなくてはならない、もったいないとは思ったこともありますが黙ってお金を出してきました。5 万円で安く買った

と思ったが現在まで随分な投資をしてきて高いものについているのかとも思います。悪くしたとすれば大変なことになる、中国では砂漠化が進んでいます。また黄砂と言う黄色い砂が飛んで来ます。これを食い止めているんだと思っています。

21 世紀になりました。

ようやく世界にも、水だとか、空気だとか言うものがただのものであると言う認識がなくなりまして自然環境の保全ということが声高に叫ばれるようになりました。これは 20 世紀が前半では第一次、第二次世界大戦で地球挙げての大喧嘩を致しまして、環境をかなり破壊したわけです。壊しておいてこれはまずいと言って後半は技術が発達して経済活動が盛んになり極度に達した、これも見方によれば環境を破壊するわけです。つまり前半は戦争により後半は経済活動により、この二つにより環境を痛めつけた。それによろやく我々がわかってきまして自然環境の保全ということが大事ななということが浸透し 21 世紀は環境の時代かなと認識してきたものと思います。横道にそれますが、私は鳥類保護連盟の副会長をしております。初代は山科さんという鳥の専門家の方二代目が河野洋平さん、三代目が鯨岡兵輔さん、鯨岡さんのとき私が呼ばれまして、原さんのところは日本の真ん中に大変広い山を持っている、鳥もたくさんいる地主の順番で言うと 4 番目であると、しかし安い山ですがと言ったら、安いの高いのではなく面積で云っている、1 位は王子製紙、2 位は日本製紙、3 位は住友林業、4 位が東海パルプ、5 位が東京電力であるが此処のところ東電は山を買い始め、東海を追い越して 4 位となったが、山には植物も多いし鳥もいる、私は老いた、是非代わってほしいと、しかし私は鳥のことは何にも知りません焼き鳥も食べませんが、と言ったがとうとうやらせられてしまいました。もう 5.6 年やっています。これも山からきている話です。此の頃は排出権という経済的な評価も出てきております。

井川山林は本州中央部に位置し、奥深い自然を残しております。数時間で新幹線を使えば奥地まで到達できる、それで環境庁に出入りするようになって、環境大臣と握手するようになったら、大臣からあなたが持っている社有林の南アルプスの国立公園を倍の大きさに拡大したい、

今 2500 メートルの高いところの木のないところになっておりますが、それをずっと広げて高度 800 メートルのところくらいまで広げたいそして静岡県の人だけでなく、日本の若い人、年寄りの方、が自然の中でじっくり共生できる場所を作りたい、国と県と所有者の東海パルプの 3 者でやろうではないかと提案がありまして、私は古い人間で国立公園になると木が切れなくなる、とっていたがそれは環境庁から説明があり、1,2,3 種あって大体 3 種でこれならかなり自由に出来るということなので原則的に結構ですと検討に入るよう返事をした。此処で内海社長と変わります。

内海社長

(株東海フォレスト代表取締役社長内海登様)

内海です。此処には森林とか林業の詳しい方が居られますのでいい加減な話は出来ないと思っています。南アルプスの話しで会長の補足を致します。

東海パルプの山は静岡県の中で 25,000 ヘクタールありまして、山梨県と長野県の間であり、この 3 県にまたがって国立公園があります。井川山林のこの面積は、旧の静岡市の 22% を占め、昭和 58 年まで林業を営んでいました。この 25,000 ヘクタールのうち、4,000 ヘクタールは木の生えていない高山植物の世界、残り 21000 ヘクタールのうち 15,000 ヘクタールくらいが一度切って更新しているところです。後 6,000 ヘクタールがぜんぜん手を触れない原始林です。今までの林業はカナダあたりと違まして傾斜のきつい方が生産性が高かった、それは人件費が安く、切って落とせば川を流して出せると言うことだった。今では人件費が高いので大型の機械力が使えるところしか採算が合わなくなった、しかしこの山にはすばらしい天然のトウヒ、カラマツ、のものがあ、ヘリコプターで出しても採算の合う木があります。この山の林業を営むのに素晴らしいところがある。それは山梨県側、長野県側に無い良いところですが、一度木を切って明るくすると山梨側、長野側とも笹が生えてくる、そうすると次の木が生えてこないの天然の更新が出来ないので、つまり人工的に植栽しないと次の世代が育たないのです。しかしうちの山は笹が生えないのです。従って自然に次の世代が育っていきます。今まで切った 15,000 ヘクタールのうちの人工

的に植栽したところはその十分の一くらい、1,500 ヘクタール程度と思います。あとは自然と同じ種類の木が生えてくる天然更新の山です。この山の標高の一番低い 1,000 メートルと一番高いところが間ノ岳 3,189 メートルの間には、深田久弥の 100 名山の 5 つが入っている。間ノ岳、塩見岳、荒川悪沢岳、赤石岳、聖岳など、皆 3,000 メートルを越すがこれらがこの東海の山に入っている。これらは素晴らしい山ですから是非また来てください。この 1,000 メートルから 3,189 メートルがどうなっているかと言うと、1,000 メートルから 1,800 メートルあたりは、落葉広葉樹つまり木を切ると山は明るくなり日当たりを好む木が茂り、次に日陰の木が伸び、自然に遷移していきまして一番最後に到達するのが極盛相といいますが、1,000 から 1,800 メートルの相は樅、200 種類くらいの落葉の広葉樹の二次林の相になります。これも春の新芽、秋の紅葉と素晴らしい。1800 メートルから 2600 メートルは針葉樹の世界で、此処は針葉樹を切るとまた針葉樹に変わる極盛相から極盛相に変わっていきます。シラベ、トウヒの林です。2600 メートル以上は森林限界で、木は生えないで、ハエマツとお花畑の世界です。お花畑は特に南部が綺麗です。

南アルプスの北部、北岳、間岳、農鳥岳には年間 30 万人くらいの方が来ますが、南部には 1 万人くらいしか来ない、アプローチが大変と言うことですが、それなりに静かなところで御座います楽しんでいただきたいと思ひます。7 月から 8 月は黄色い花が、お盆過ぎからは紫色の花が咲きます。ミヤマムラサキの可憐な花が私は好きであります。この山を今後どうしていけばよいか、とにかく日本の山は年間 70 兆円くらいの価値があると云われますが、この山だけでも 700 億円くらいの価値があるとのことです、しかし公共的な役割はあっても企業にとっては何もありませんので、皆さんに来ていただきたいと思ひしております、せめて 1 万人が 5 万人くらいになればと思ひます。今ピオトープ、自然環境復元と言ひますが、コンクリート 3 面張りの川を生態系豊かな川に復元するという対策がすすんでいるわけですが、この山にはこれが存在しているわけです。皆様のお出でをお待ちしております。

原 会長

島田の製紙業について話します。

日本の製紙業は伝統的和紙の生産でありましたが、明治6年フォードリニアと言うイギリスの技術者の名前をとった洋紙の長網式の紙を抄く機械が輸入され、今年130年目となりますがこのとき王子製紙ができましたので、王子製紙の創立130年目となるわけです。紙をつくるには基本があって木材からチップをつくりパルプを作り紙をつくる方法と、少し遅れて古紙を使って古紙パルプを作り、板紙を作る、この二つの流れが130年間続いていると考えてください。古紙を使った板紙はダンボール原紙、チップボール、色板、家庭紙などでメーカーも中小規模のものが多かったし、また古紙が都会から出たので工場も都会近辺に多い、わかりやすく町から出たから町彦、大昭和製紙、大王製紙、高崎製紙など古紙屋さんから始まったものですが、これに対し山から下りてきた製紙業、これは町彦にたいして山彦、王子製紙、北越製紙、紀州製紙、東海パルプ、等比較的大規模なメーカーがある。ところが古紙については、ダンボール原紙が急速に伸びまして、これは経済活動の進展によりそれまでの木箱がダンボールに転換したこと、また紙ごみの増加がすごく、社会問題となり、再利用が要求されたこと、古紙を処理するためのインクを抜く、汚水を処理するなどの技術が進み、古紙を紙にするものが増えた。これに追い討ちをかけるように中国が紙の生産を増やしてきて、昨年中国の紙生産量は日本を抜き世界第二位になったが、原料として今まで葦のようなものを利用していたがとても足りないそこでヨーロッパ、アメリカ、最近では日本から大量に古紙を買い付けるようになりました。ここ1年日本での余っていた古紙を持っていくようになり価格がアップし、このため板紙の業者は赤字になるようになった。一方21世紀になり日本の製紙業は再編成された。株価の欄を見ると以前紙パルプの会社は20社ばかりあったが今12社程度です。東海パルプの欄から以前は5,6社あって王子製紙だったのが今東海の次は王子となってしまった。合併したのです。日本以上に北米、北欧も同じで、製紙の世界は今、北米、北米、日本と中国のアジア勢の3極構造になっている。東海は山彦であったが、昭和36年ダンボール原紙に本格的

に進出し、木を使わず古紙を使うと言う原料転換も行った。その頃には木材の競争力がカナダあたりに負けておりましたので自然に井川山林から木を出すことが終わってしまった。また外国からチップを買うために専用船を4隻もつかったが、今は台紙が増え1隻になってしまった。サザンアルプス号がニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、等に行ってチップを積み清水港に入港しこれを自動車で島田に運んでいる。山は一定の費用で保全を行い、山林経営とは関係が無くなって、古紙を中心にしたリサイクルメーカーに転進したことになった。これは環境重視の観点から転換したことではなく、少しずつ少しずつ変わっているうちに21世紀型の環境重視の経営になった。リストラで赤字の部門を切って黒字にすると言うところではなく、根本的に大きな費用をかけ長い時間をかけ背骨の部分を変えてしまった。原料が75%古紙では東海パルプではなく東海リサイクルペーパーと云える。さらに最近では木屑の廃棄物を燃料とするボイラを新設して電気を起こしている。中電さんから殆ど買っていないで自家発電で賄っている。さらに最近では廃プラの廃棄物をベレット状に加工して燃料にしてしまいこれを燃すボイラを造ろうと計画しています。こういうことから当社では、山林経営から脱して、古紙のノウハウから古紙処理技術、廃水処理技術、廃棄物ボイラ技術、環境処理技術と言うものが新しく芽を出しつつある。良い原料を大量に使用して生産活動を行い、時としては色々な公害を惹き起こし結果的に大量消費のごみを発生する企業活動はもはや過去のものであります。環境重視これと調和するのではなく、積極的に貢献するリサイクル型の企業を目指しております。かつて高度成長時代、紙パルプ産業は化学産業や鉄鋼産業と同じく公害型産業といわれ田子の浦の汚水ヘドロ公害が典型であったがいまやそれは全く影をひそめ、リサイクル産業として評価を受けるようになった。さて、つい最近のことだが日本の人口は頭打ち、消費活動がこれ以上活発にはならない、つまり紙の消費が3,000万トンとここ数年横ばいである。新しいマシンを入れて生産を増やすことはむずかしい、そこで上海に合併で大規模工場を作ることにした。東海が中国の人と上海あたりで仕事をするとすると誤魔化されてしまうので

はないか心配で、そこで台湾の大手の親しいメーカーと合併で180億の規模の金を出してやることにした。来年秋口に年産30数万トンのダンボール原紙の工場が出来る。中国では公害問題が出てきておりますので公害のないモデル工場にしようと思っております。

以上です。あと工場長に補足させます。

高久工場長

(東海パルプ(株)常務取締役工場長高久次雄様)

製紙工場と環境問題への取組と言うことで少し話します。まず紙を作る機械、抄紙機には2つあります。一つは長網式でエンドレスの金網またはプラスチックワイヤに原料を噴射させて紙にするもの、また板紙を中心にした丸い円筒形の金網を張り付けて原料の中で回転させて紙を抄くものの二つがあります。長網から始まった。紙とは何かと言うとJIS規格では、天然繊維のセルロースを使うこと、セルロースを水で分散して固めることの2つの規定があります。抄紙機は最初フランス人ルイローベルが1,800年に造った。この人はもともと手抄きで紙を作っていた人であったが、フランス革命のときの混乱で人手が不足し、機械を造ってやれないかと考え、造り、特許をとった。これをイギリスのフォドリニア兄弟が改良したものが長網式である。これが1830年ごろヨーロッパに広まった。日本に入ってきたのは1870年代である。発明から50年から60年の長い年月がかかっている。実機で売り物になるのに20年から30年がかかっている。大変長い。環境と製紙業で重要なことは古紙のことで、日本の製紙業が環境のことで取り組むことには4つの重要なことがあります。一つに古紙、もっと沢山使しましょう。目標は利用率で紙の生産量3,000万トンの60%にしようと、これを環境自主行動計画の一番に挙げています。2004年に達成しようとしてきましたが、昨年既に達成しているようです。従って古紙を原料にする機械(DIP)が沢山使われている。紙を作る機械は増えていないのですが原料を変える機械は増加している。私が入社した1968年には日本の紙生産量は1,000万トン現在は3倍になりました。GDPも3倍になった。人口は1億人でしたから1.25倍です。エネルギーは2倍になったのですが、紙トン当たりでは随分少なくなりました。紙の需要は1996年で3,000万ト

ンになりそれから横ばいです。今注目しているのは中国の紙生産量です。ここ5年間急上昇しています。

わが国の紙の原料ですがパルプは一定量ですが紙の生産量が増えている分原料はリサイクルによっているということです。製紙産業は環境改造型産業である。今後もこれを進めていくことにあります。

二つ目には省エネルギーということです。これは購入エネルギー原単位を下げると言うことです。石油関係の燃料を使わないでエネルギーを確保しよう、これが環境に係わる自主行動計画の二番目であります。古紙をリサイクルしますと紙の原料にならないものが、多いもので35%、少ないもので5%入っております。これはペーパーラッジといいますが古紙を使えばどんどん増えていきます。これを埋め立てるには処分場の容量がありませんので、これを木屑などと共に燃料にしております。また当社はこれを一歩進めて廃プラスチックを燃料にする会社を作ってRPFと言っておりますがこれをはじめしております。こうして購入エネルギー原単位を下げております。他社でも古紙を増やすと共に並行的に廃棄物ボイラを増やしております。現在6社が増設中で、これらがすべて熱電併給システムであります。今経済産業省が熱電併給システムをと言っていますが、製紙工場は昔から熱電併給システムであります。この他製紙工場としては廃棄物を減らし、ゼロディスチャージをほぼ完了しています。もう一つは植林で御座います。炭酸ガスの吸収を図ると言うことで目標を60万ヘクタールやりましようとしています。

講演者プロフィール

東海パルプ株式会社

取締役会長 原 健二様 一橋大学卒

55年東海パルプ入社 84年同社取締役

93年同社取締役社長 01年同社取締役会長

(財)日本鳥類保護連盟副会長

大倉文化財団評議員

00年藍綬褒章受賞

日本経済団体連合会評議員

(以上文責編集子)

投 稿

インターフェイス

会員 稲葉 弘之

最近、自分より年下の人から、言ったはずのことを覚えていてくれない、あるいは言ったはずのないことを私から教わったといわれ、当惑する場面が増えたように感じます。

もっとも、私とて誰から聞いたのか忘れることはありませんが、大抵は記憶しているものです。先日、私が新入社員時代にすぐ上において指導してくれた先輩に会いました。この人から教わったことは、もちろん身につきましたが、「あのとき教わった言葉まで」鮮明に覚えています。「そのときの顔の表情まで」忘れていません。そういった先輩や上司は何人もいます。当時、駆け出しの稲葉に対して顔と顔で接して下さったからだと言えるでしょう。まさに活きた「顔と顔の」インターフェイスです。

最近、ベテランから若手技術者への技術の伝承がうまくいかず、技術力の低下を真剣に懸念する話を見聞きします。分野を問わず産業界全体に言える課題のようです。自分自身がベテランと呼ばれはじめた今日、はたして後輩をしっかりと指導しているのだろうか？と自問しはじめています。

私が先輩の下で仕事をしておぼえた当時、(といってもせいぜい20年前ですが)帰宅途中に丸善で技術書を立ち読みしたり、業務応援先(日水コン)の図書室に半日入り浸ったり、そういう余裕が先輩にもそして駆け出しの自分にもいくらかはあったのです。だからこそ、生のインターフェイスがもて、技術を受け継げたのだと思うのです。

いま、その余裕がもてない仲間が多いようです。もちろん私も含めて。それとも、時間の使い方が却って下手になったのだろうか、とも思

います。

20年前というと、図面は手書き、計算も関数電卓がやっと普及しはじめたころのことです。仕事はチームで、顔をあわせてやった記憶がはっきり残っています。算盤と計算尺、対数表の時代の先輩がたも、そのように「顔と顔で」技術をリレーして下さったはずです。

現在、職場の景観は劇的に変化しました。各自1台のパソコンに向かい、一心不乱にマウスを操作して図面をつくり、計算データを入力します。「人の顔を見ることなく」業務はすすめることができます。

パソコン画面からはインターネットをつうじて広く世界から最新の技術情報は得られますが、どうにも自分の身の丈にあわない身につかない他人の情報の情報で、通りすぎるだけに思えてなりません。「ひと」と「ひと」のインターフェイスが、「機械」と「人」とに入れ替わってしまったと感じます。

そのことに気づいた今、パソコン画面を見ながら指導するのではなく、顔をみて、目を見て話すように心掛けています。指導する相手が女性の場合、セクハラ扱いを受けるリスクはありますが、そこはきちんと説明して、しかもこれは意識的にやらないといけないと思います。なにせパソコンの画面は私の丸い顔よりだいぶ大きいからです。



- 会員の消息 -

新入会員紹介

氏名
生年月日
技術部門 登録番号
最終学歴
勤務先
TEL, FAX



みずかみともひと
水上友人

化学部門 49039

(株)キャタラー



よしだたけひこ
吉田建彦

経営工学部門 62976

NTN(株)



きむらとしあき
木村敏明

建設部門 16899

(株)駿河調査設計

技術部門変更

柳澤敏行

変更前 水道、建設部門

変更後 水道、建設部門に加え総合技術監理部門

休会 渡邊良和

退会 北上博見

会費の納入のお願い

会費の納入を下記へお願い申し上げます。

正会員の方は 年会費 8,000 円

名誉会員の方は 年会費 4,000 円です。

振込口座：静岡銀行清水中央支店

普通 0718595

静岡県技術士協会

常任理事（会計担当）藤田協右

TEL 0543-64-1148

- 編集後記 -

今号は総会の記念講演を主に掲載させていただきました。又総会の議案内容につきましては、議案書通りで承認されましたので恐縮ですがこれを併用していただきますと思います。

(文責編集子)